

1

解答解説のページへ

α は $0 < \alpha < \pi$ を満たす実数とする。 xy 平面において、 $y = \sin x$ のグラフと $y = \sin(x - \alpha)$ のグラフの交点のうち、 x 座標が正で最小のものを P とおく。次の問いに答えよ。

- (1) P の座標を α を用いて表せ。
- (2) P の x 座標を c とする。曲線 $y = \sin x$ ($\alpha \leq x \leq c$)、曲線 $y = \sin(x - \alpha)$ ($\alpha \leq x \leq c$) と直線 $x = \alpha$ とで囲まれた図形を x 軸のまわりに 1 回転してできる回転体の体積 $V(\alpha)$ を求めよ。
- (3) α が $0 < \alpha < \pi$ の範囲を動くときの $V(\alpha)$ の最大値を求めよ。

2

解答解説のページへ

p, q を実数とする。3 次方程式 $x^3 - 3x^2 + px + q = 0$ は 1 個の実数解 b と 2 個の虚数解をもつとする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 虚数解の 1 つを α とするとき、 α と共役な複素数 $\bar{\alpha}$ がもう 1 つの虚数解であることを示せ。
- (2) α の実部を r とする。 $|\alpha - \bar{\alpha}| = |\alpha - b| = 2\sqrt{3}$ のとき、 $|r - b|$ を求めよ。
- (3) (2) の仮定の下で、可能な実数の組 (p, q) をすべて求めよ。

3

解答解説のページへ

次の問いに答えよ。

- (1) $1 < m \leq n$ を満たす自然数 m, n に対し、次の不等式が成り立つことを証明せよ。

$$\int_m^{n+1} \frac{dx}{x} < \sum_{k=m}^n \frac{1}{k} < \int_m^{n+1} \frac{dx}{x-1}$$

- (2) $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k}$ の整数部分を求めよ。ただし、実数 x に対して a が x の整数部分であると、 a が整数であって $a \leq x < a+1$ が成り立つことをいう。また、正の実数 x の自然対数を $\log x$ とし、 $\log 2 = 0.69$, $\log 3 = 1.10$, $\log 2020 = 7.61$ とする。

4

解答解説のページへ

座標空間内に 3 点 $A(\sqrt{3}, 0, 0)$, $B(0, 3, 0)$, $C(-\sqrt{3}, 0, 0)$ をとる。△ABC の重心を通り xy 平面に垂直な直線を l とする。また、点 $P(p, q, r)$ は、 $r > 0$, $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AP} = 0$, $\overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{CP} = 4$ を満たしているものとする。次の問いに答えよ。

- (1) p および r を q を用いて表せ。また、 q がとり得る値の範囲を求めよ。
- (2) 線分 BP の中点を M とする。また、 l 上に点 N を \overrightarrow{BP} と \overrightarrow{MN} が垂直になるようにとる。N の座標を q を用いて表せ。
- (3) N の z 座標が最小になるときの q の値を求めよ。

1

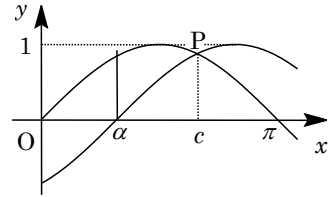
問題のページへ

- (1)
- $0 < \alpha < \pi$
- のとき,
- $y = \sin x \cdots \cdots \textcircled{1}$
- と
- $y = \sin(x - \alpha) \cdots \cdots \textcircled{2}$
- を連立して,

$$\sin x - \sin(x - \alpha) = 0, \quad 2 \cos\left(x - \frac{\alpha}{2}\right) \sin \frac{\alpha}{2} = 0$$

$$0 < \frac{\alpha}{2} < \frac{\pi}{2} \text{ から } \sin \frac{\alpha}{2} \neq 0 \text{ となり, } \cos\left(x - \frac{\alpha}{2}\right) = 0$$

$$x - \frac{\alpha}{2} = n\pi + \frac{\pi}{2} \quad (n \text{ は整数})$$



すると, x が正で最小のものは $x = \frac{\pi}{2} + \frac{\alpha}{2}$ となり, このとき①から,

$$y = \sin\left(\frac{\pi}{2} + \frac{\alpha}{2}\right) = \cos \frac{\alpha}{2}$$

よって, ①と②のグラフの交点 P の座標は $P\left(\frac{\pi}{2} + \frac{\alpha}{2}, \cos \frac{\alpha}{2}\right)$ となる。

- (2)
- $c = \frac{\pi}{2} + \frac{\alpha}{2}$
- として,
- $\alpha \leq x \leq c$
- において, ①と②のグラフおよび直線
- $x = \alpha$
- とで囲まれた図形を
- x
- 軸のまわりに 1 回転してできる回転体の体積を
- $V(\alpha)$
- とすると,

$$\begin{aligned} V(\alpha) &= \pi \int_{\alpha}^c \sin^2 x \, dx - \pi \int_{\alpha}^c \sin^2(x - \alpha) \, dx \\ &= \pi \int_{\alpha}^c \left\{ \frac{1 - \cos 2x}{2} - \frac{1 - \cos 2(x - \alpha)}{2} \right\} dx \\ &= -\frac{\pi}{2} \int_{\alpha}^c \{ \cos 2x - \cos 2(x - \alpha) \} dx = \frac{\pi}{2} \cdot 2 \sin \alpha \int_{\alpha}^c \sin(2x - \alpha) dx \\ &= \pi \sin \alpha \left[-\frac{1}{2} \cos(2x - \alpha) \right]_{\alpha}^c = -\frac{\pi}{2} \sin \alpha \{ \cos(2c - \alpha) - \cos \alpha \} \\ &= -\frac{\pi}{2} \sin \alpha \{ \cos(\pi + \alpha - \alpha) - \cos \alpha \} = \frac{\pi}{2} \sin \alpha (\cos \alpha + 1) \end{aligned}$$

- (3)
- $0 < \alpha < \pi$
- において, (2) から,

$$\begin{aligned} V'(\alpha) &= \frac{\pi}{2} \{ \cos \alpha (\cos \alpha + 1) + \sin \alpha (-\sin \alpha) \} = \frac{\pi}{2} (2 \cos^2 \alpha + \cos \alpha - 1) \\ &= \frac{\pi}{2} (2 \cos \alpha - 1)(\cos \alpha + 1) \end{aligned}$$

すると, $V(\alpha)$ の値の増減は右表のようになり, $V(\alpha)$ の最大値は,

$$V\left(\frac{\pi}{3}\right) = \frac{\pi}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \left(\frac{1}{2} + 1\right) = \frac{3}{8} \sqrt{3} \pi$$

α	0	⋯	$\frac{\pi}{3}$	⋯	π
$V'(\alpha)$		+	0	-	0
$V(\alpha)$		↗		↘	

[解 説]

回転体の体積を題材とした微積分の基本題です。計算量は標準的です。

2

問題のページへ

- (1) p, q を実数として、3次方程式 $x^3 - 3x^2 + px + q = 0$ ……①に対し、虚数解の1つを α とするとき、 $\alpha^3 - 3\alpha^2 + p\alpha + q = 0$ が成り立ち、

$$\overline{\alpha^3 - 3\alpha^2 + p\alpha + q} = \overline{0}, \quad \overline{\alpha^3 - 3\alpha^2 + p\alpha + q} = 0, \quad (\overline{\alpha})^3 - 3(\overline{\alpha})^2 + p\overline{\alpha} + q = 0$$

これより、 $\overline{\alpha}$ も①を満たし、①の2個の虚数解は α と $\overline{\alpha}$ である。

- (2) α の実部を r 、虚部を $s (s \neq 0)$ とすると、 $\alpha = r + si$ 、 $\overline{\alpha} = r - si$ となる。

ここで、 $|\alpha - \overline{\alpha}| = |\alpha - b| = 2\sqrt{3}$ より、 $|2si| = |(r - b) + si| = 2\sqrt{3}$ となり、

$$|s| = \sqrt{3}, \quad \sqrt{(r - b)^2 + s^2} = 2\sqrt{3}$$

これより、 $(r - b)^2 + 3 = 12$ となり、 $(r - b)^2 = 9$ から $|r - b| = 3$ である。

- (3) 3次方程式①に対して、解と係数の関係を適用すると、

$$\alpha + \overline{\alpha} + b = 3 \dots\dots\dots②, \quad \alpha\overline{\alpha} + b\alpha + b\overline{\alpha} = p \dots\dots\dots③, \quad \alpha\overline{\alpha}b = -q \dots\dots\dots④$$

ここで、(2)から、 $s = \pm\sqrt{3}$ 、 $r - b = \pm 3$ (複号任意) なので、

- (i) $r - b = 3$ のとき $\alpha = b + 3 \pm \sqrt{3}i$ 、 $\overline{\alpha} = b + 3 \mp \sqrt{3}i$ (以下、複号同順)

②より、 $2(b + 3) + b = 3$ から $b = -1$ となり、 $\alpha = 2 \pm \sqrt{3}i$ 、 $\overline{\alpha} = 2 \mp \sqrt{3}i$

③より $p = (4 + 3) + (-1) \cdot 4 = 3$ 、④より $q = -(4 + 3) \cdot (-1) = 7$

- (ii) $r - b = -3$ のとき $\alpha = b - 3 \pm \sqrt{3}i$ 、 $\overline{\alpha} = b - 3 \mp \sqrt{3}i$ (以下、複号同順)

②より、 $2(b - 3) + b = 3$ から $b = 3$ となり、 $\alpha = \pm\sqrt{3}i$ 、 $\overline{\alpha} = \mp\sqrt{3}i$

③より $p = 3 + 3 \cdot 0 = 3$ 、④より $q = -3 \cdot 3 = -9$

(i)(ii)より、 $(p, q) = (3, 7)$ 、 $(3, -9)$ である。

[解説]

3次方程式についての基本的な問題です。上の解法では、解と係数の関係がポイントになっています。

3

問題のページへ

- (1) 単調に減少する関数 $y = \frac{1}{x}$ に対し、 $1 < m \leq n$ を満たす自然数 m, n をとり、右上図において面積を比較すると、

$$\int_m^{n+1} \frac{dx}{x} < \frac{1}{m} + \frac{1}{m+1} + \dots + \frac{1}{n} = \sum_{k=m}^n \frac{1}{k}$$

同様に、右下図から、

$$\int_{m-1}^n \frac{dx}{x} > \frac{1}{m} + \frac{1}{m+1} + \dots + \frac{1}{n} = \sum_{k=m}^n \frac{1}{k}$$

さて、 $x = t - 1$ とおくと、 $dx = dt$ となり、

$$\int_{m-1}^n \frac{dx}{x} = \int_m^{n+1} \frac{dt}{t-1}$$

さらに、 $\int_m^{n+1} \frac{dt}{t-1} = \int_m^{n+1} \frac{dx}{x-1}$ であることに注意すると、

$$\int_m^{n+1} \frac{dx}{x} < \sum_{k=m}^n \frac{1}{k} < \int_m^{n+1} \frac{dx}{x-1} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

- (2) まず、①より、 $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k} = 1 + \sum_{k=2}^{2020} \frac{1}{k} < 1 + \int_2^{2021} \frac{dx}{x-1}$ となり、

$$\int_2^{2021} \frac{dx}{x-1} = [\log|x-1|]_2^{2021} = \log 2020 - \log 1 = 7.61$$

これより、 $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k} < 1 + 7.61 = 8.61 \dots\dots\dots \textcircled{2}$

また、①より、 $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k} = 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{2020} + \sum_{k=3}^{2019} \frac{1}{k} > 1.5 + \frac{1}{2020} + \int_3^{2020} \frac{dx}{x}$ となり、

$$\int_3^{2020} \frac{dx}{x} = [\log|x|]_3^{2020} = \log 2020 - \log 3 = 7.61 - 1.10 = 6.51$$

これより、 $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k} > 1.5 + \frac{1}{2020} + 6.51 = 8.01 + \frac{1}{2020} > 8.01 \dots\dots\dots \textcircled{3}$

②③より、 $8.01 < \sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k} < 8.61$ となるので、 $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k}$ の整数部分は 8 である。

[解説]

(1)は有名な面積比較による不等式の証明です。それを利用して(2)の整数部分を求めるわけですが、不等式①はストレートに利用することはできず、右側の不等式から試行錯誤が必要になります。ただ、その手掛かりは与えられていて、 $\log 3$ と $\log 2020$ の値が対応します。 $\log 2$ の値は必要ありませんでしたが……。

4

問題のページへ

(1) $A(\sqrt{3}, 0, 0)$, $B(0, 3, 0)$, $C(-\sqrt{3}, 0, 0)$, $P(p, q, r)$ に対して,

$$\overline{AB} = (-\sqrt{3}, 3, 0), \quad \overline{AP} = (p - \sqrt{3}, q, r), \quad \overline{CP} = (p + \sqrt{3}, q, r)$$

$$\overline{AB} \cdot \overline{AP} = 0 \text{ から } -\sqrt{3}(p - \sqrt{3}) + 3q = 0 \text{ となり, } p = \sqrt{3}q + \sqrt{3}$$

$$\overline{AP} \cdot \overline{CP} = 4 \text{ から } (p - \sqrt{3})(p + \sqrt{3}) + q^2 + r^2 = 4, \text{ すなわち } p^2 + q^2 + r^2 = 7 \text{ より,}$$

$$3(q+1)^2 + q^2 + r^2 = 7, \quad r^2 = -4q^2 - 6q + 4$$

ここで, $r > 0$ から $-4q^2 - 6q + 4 > 0$ となり, $2q^2 + 3q - 2 < 0$ より,

$$(q+2)(2q-1) < 0, \quad -2 < q < \frac{1}{2}$$

このもとで, $r = \sqrt{-4q^2 - 6q + 4}$ である。(2) 線分 BP の中点 M は $M\left(\frac{p}{2}, \frac{q+3}{2}, \frac{r}{2}\right)$ となり, $\triangle ABC$ の重心 $(0, 1, 0)$ を通り xy 平面に垂直な直線 l 上の点 N は $N(0, 1, z)$ と表せるので,

$$\overline{BP} = (p, q-3, r), \quad \overline{MN} = \left(-\frac{p}{2}, \frac{-q-1}{2}, z - \frac{r}{2}\right)$$

ここで, $\overline{BP} \cdot \overline{MN} = 0$ より $-\frac{p^2}{2} - \frac{(q-3)(q+1)}{2} + rz - \frac{r^2}{2} = 0$ となり, (1) から,

$$2rz = p^2 + q^2 - 2q - 3 + r^2 = 7 - 2q - 3 = -2q + 4$$

よって, $z = \frac{-q+2}{r} = \frac{-q+2}{\sqrt{-4q^2 - 6q + 4}}$ から, $N\left(0, 1, \frac{-q+2}{\sqrt{-4q^2 - 6q + 4}}\right)$ である。(3) $-2 < q < \frac{1}{2}$ において, $z = \frac{-q+2}{\sqrt{-4q^2 - 6q + 4}} = \sqrt{\frac{(2-q)^2}{2(q+2)(1-2q)}}$ ここで, $f(q) = \frac{(2-q)^2}{(q+2)(1-2q)}$ とおき, 両辺に対数をとると,

$$\log f(q) = 2\log(2-q) - \log(q+2) - \log(1-2q)$$

$$\begin{aligned} \frac{f'(q)}{f(q)} &= -\frac{2}{2-q} - \frac{1}{q+2} + \frac{2}{1-2q} \\ &= \frac{11q+2}{(2-q)(q+2)(1-2q)} \end{aligned}$$

すると, $f(q)$ の増減は右表のようにな

q	-2	...	$-\frac{2}{11}$...	$\frac{1}{2}$
$f'(q)$		-	0	+	
$f(q)$		↘		↗	

り, $z = \sqrt{\frac{f(q)}{2}}$ から, $q = -\frac{2}{11}$ のとき N の z 座標は最小になる。

[解説]

空間ベクトルが題材になっていますが, 上の解答例は, その意味を考えずに, 計算で押し通したものです。ただ, 計算量はやや多めです。